



# 立て心よ 行け私よ

No. 4

【問題解決力】 【他者関係力】 【自己更新力】

文責:中村 文成

## 1学期終了 ありがとうございます

【1学期終業式 校長先生のお話より】

4月4日に144名の1年生を迎え、墨坂中学校の令和6年度が始まってから、72日目、1学期の終業式を迎えました。生徒のみなさんと先生方が元気に1学期を終わることができることを大変うれしく思います。

そして今は3人の友達から1学期のまとめやこれからの目指すものについて、すばらしい発表がありました。1年 高橋 優衣 さん 2年 鈴木 孝之助 さん 3年 沖 風和 さん。3名の皆さん、自分を振り返り、よりよい自分を作って認めていこうとする、心に迫る発表をありがとうございました。



さて、1学期を簡単に各学年ごと振り返ってみます。

1年生 もうすっかり中学生になりました。いくつかの授業の様子を見させてもらいましたが、自分の考えを積極的に出し、反応している人が多いです。妙高自然体験学習では仲間と楽しみ、系の活動に

責任を持ち、協力して取り組むことを通して友達や自分のさらなるよさを知ることができました。

2年生、新しいクラスをよりよくしていこうと正面から課題に取り組んでいる姿がありました。生徒会の当番活動や部活動に元気に取り組んでいる姿も素晴らしいです。1年生のよきお手本として、そして3年生のよき姿に学ぼうとしていました。

3年生です。4月に行われた2泊3日奈良京都修学旅行を始めとし、生徒会活動、中体連の大会、この後行われる吹奏楽と合唱コンクール・・・3年生は学校の顔として機関車として大活躍してくれました。1学期を振り返ってきっと自分がかんばった瞬間、輝いた瞬間をいくつも思い出すことができるでしょう。頼もしい3年生です。2学期はいよいよ墨坂祭があります。UNITYして Time to Shineにしましょう。宜しくお願いします。

私がこの1学期で嬉しかった事がもう一つあります。それは部活動への取組です。あなたたち中学生にとって部活動は、生活の中で大きな部分を占めている人が多かったと思います。学校の1年間はまた



1/3が過ぎただけですが、多くの3年生にとっては、その部活動が終わりを迎えました。勝ち負けはありましたが、勝ち負けの嬉しさや悔しさだけでないものが、3年間の部活動を通して得られたのではないのでしょうか。スポーツに限らず、一生懸命に打ち込んできたものだからこそ得られたものではないかと思います。先ほど紹介のあった山岸さんと亀田さんは、応援してくれている全校の皆さんの思いを受け止めながら、長野県の代表として全力で北信越大会で戦ってきてください。吹奏楽部と合唱部はコンクールが迫ってきました。壮行会でお話した、魂をぜひぶつけてきてください。

さて、この夏休み中には、4年に一度のオリンピック、パリオリンピックが7/27から8/11まで開催されます。4年に一度のスポーツの、そして平和の祭典ですが、前回の東京大会はコロナ禍のため3年前に開催されました。この夏のパリ大会も私たちは日本人選手を始めとする選手達の活躍に感動をもらったり、心を躍らせたりすることと思います。

勝ち負けの嬉しさや悔しさだけではないもの、例えば「礼を重んじる」ことや「勝負の場でも相手を思いやる」ことのような、つまり「人間力」に心を動かされることがあることでしょうか。選手の姿から感じることができる、勝ち負けの嬉しさや悔しさだけではないものを、前回の東京大会でのある選手の姿から紹介します。今日お話しするのは、この人についてです。

柔道男子 73 キロ級でオリンピック2連覇を達成した大野将平選手です。実を言うとこの選手については、3年生の道徳の教科書の最初に載っています。今日の私の話は、その道徳の授業でマイナスには働かないと判断した上で、お話しします。



私が彼を知ったのは、8年前のリオデジャネイロオリンピックの時でした。柔道にもその人のスタイルというのがあって、特に外国人は、自分の得意の組み手になることや相手の得意の組み手を切ることに強くこだわるがために、柔道着を両手で持って組み合うことを避ける、つまりきちんと組み合うことをしない柔道が多く見られます。そんな中、大野選手は常に日本柔道の伝統スタイルである「正しく組んで、正しく投げる」を貫いてきたのです。そうした柔道スタイルもさることながら、彼の所作、振る舞い、言動、考え方等に心を動かされます。今回も試合での活躍のみならず、その前後の振る舞いやインタビューを見聞きするに付け、熱い物がこみ上げてきました。

【ここで、大野選手が試合に臨もうとするVTRを視聴しました】

大野選手はリオ五輪で金メダルを取ってから、より自分の内面と向き合うようになりました。大きな大会には参加せず、大学院で大外刈りについての修士論文に向き合うこともしました。

彼は「若い頃は怖いものしらず。でも、経験値を積んで勝負の怖さを知った。勝ち続けるためには自分の弱さを知る必要があった」と言っています。稽古相手を自分に見立て、どうすれば自分を負かせるかを考え抜きました。自分にはどんな癖があるか。エンジンのかかりの遅さをどう突くか。寝技なら対抗できるのではと。自分の弱点を客観視するのは気がめいるはずですが、それでも、その自分を倒す稽古を黙々と続けました。



また、こういうことも言っています。「オリンピックは柔道家にとって最高の舞台かもしれないけど、オリンピックだけに左右される人生だったら寂しい。柔道みたいに『道』がつく競技には一生、終わりがいいんだから」と。また、「弱さを経ない強さなんて、ないでしょう」「強くなりたいではなく、強くありたい」とも。オリンピックが延期され、誰もが悩



み、どうふるまうべきかに苦しんだこの1年。大野選手の心も揺れました。それでも、人間として「強くありたい」と思い続けたその先に2連覇がありました。

大野選手は、山口に12年間住んで上京し、中学1年から親元を離れて寮生活を送り、柔道の私塾『講道学舎』でその礎を鍛えました。

そこで教わったことは、「柔道で強くなることを通じて人間力が成長していないと、やっぱり寂しいよね、強いだけじゃつまらんぞ」ということだそうです。

「『粗野なれど卑にあらず』という恩師からの教えがあります。荒削りだけれども卑しくはないと。人間には荒い部分があって完璧な人間はいないし、失敗してもいい。でも、ずるく生きるな、真っ直ぐに進めと。そういう人間でありたいなと思いました。本当の人間力というものを叩き込まれました。理不尽の中の我慢とか、本当の人としての強さとはなにかとか。根本的なものを思春期に叩き込まれたので、本当に追い込まれたときの意地みたいなものを持って戦っています。」と彼は語っています。

決勝で、ジョージアのラシャ・シャフダトゥアシビリ選手との延長戦を制した瞬間は険しい表情を崩さず、ゆったりとした足取りで礼の位置に戻りました。畳の上ではニコリともしない。勝利判定を受けるとしっかり一礼し、対戦相手と固く抱擁を交わしました。

敗れたシャフダトゥアシビリ選手も両手を前に差し出して歩み寄り、畳の中央で強く抱き合いました。体を離し、顔が向き合った場面。大野選手は一瞬、右手の親指を立ててサムアップポーズを作り相手を称えました。最後に手を握り、ゆっくりと場外へ向かっていきました。そして、天井を数秒間見上げました。畳を降りる前にも数秒間丁寧に礼をし、そこを離れて初めて笑みをこぼしました。【ここで二連覇を達成したときのVTRを視聴しました】

大野選手はリオ五輪でも金メダルに輝きましたが、勝利を決めた後もあからさまに喜ぶ姿を見せず、畳上で対戦相手に敬意を払って深々と頭を下げる様が、「理想的な柔道家」として世界で評価されました。当時の写真が、3年生の道徳の教科書に掲載されているのです。

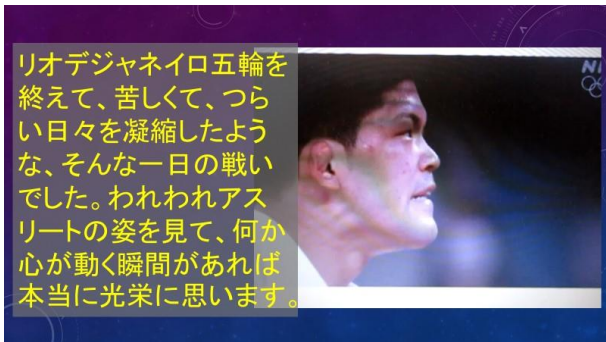
そんな姿について大野選手はこう言っています。「相手のいる競技の中で、こちらが投げて勝っている。悔しがっている相手に対して、こちらが喜ぶということは、その相手に悔しさ以外の余計な感情を芽生えさせる結果になるかもしれない。だから何もしない。それが僕のスタンスです」と。余計な振る舞いが相手に“負、マイナスの感情”を与える可能性にも思いを巡らせています。相手へのリスペクト、敬意を欠かさない意味でも、淡々と、感情を表出させないのが、武道家・大野選手の人間力なのです。

彼は続けて言います。「感情を出すことは、競技によってはパフォーマンスという意味もあると思う。その気持ちもちろんなわかります。ただ僕がやっているのは柔道で、武道なんです。だからそれが僕のやり方です。あくまで自分の考え、まわりに押し付けるものではありません。ガッツポーズとかってというのは咄嗟にできるものだと思うんです。だからラスト1秒で逆転勝ちしたら、僕でもすると思う。でも勝って冷静なときに、過剰にやるのは、僕は嫌だなと。勝ったときのほうが相手の事を思いやれる余裕があると思います。」と。



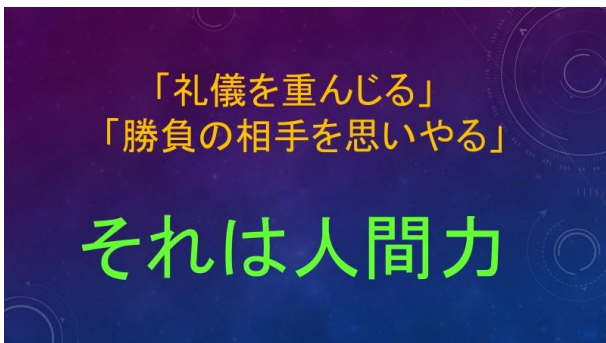
大野選手が試合後のインタビューで言っています。【このあと、インタビュー動画を視聴しました】  
「まだ、私の柔道人生というのはこれからも続いていく。今後もやはり自分を倒す稽古を継続してや

っていきたい」、「リオデジャネイロ五輪を終えて、苦しくて、つらい日々を凝縮したような、そんな一日の戦いでした。われわれアスリートの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば本当に光栄に思います。」



大野選手は現在、プレーイングコーチとしてイギリスに留学し、英語や指導者としての勉強に励んでいるそうです。

私は、大野選手から「礼を重んじる」ことや「勝負の相手を思いやる」ことの大切さを教えられました。これぞ「人間力」の高さだと思います。日本人はどの競技でも礼を大切にしています。墨坂中の皆さんも、各部活動だけでなく普段の生活の場においても「お願いします」最後に「ありがとうございました」と言えますし、「おはようございます、こんにちは、さようなら」の挨拶を自分から大きな声でできる人が多く、大変気持ちがいいです。これからも相手を思いやる気持ちを、これらの言葉に表してほしいと思います。



明日から、夏休みです。パリオリンピックでの選手達の活躍や様々な姿からたくさんの感動や勇気をもたらしてください。そして、皆さんもそれらをもって、勉強でも運動でも普段できないことに挑戦してください。何か一生懸命になる時間、自分が輝く時間を過ごしてください。ただし、決して他の人に迷惑をかけることや邪魔をするようなことはしないようにしてください。家族や友達に悲しい思いをさせるようなことのない楽しい夏休みにしてください。そして、2学期が始まる8月21日にはひとまわりたくましくなって登校してきてください。それでは、みなさんにとって32日間の夏休みが、すばらしいものとなることを願ってお話を終わりにします。

## 令和6年度 運動部 県大会等の結果 (一部)

大会結果については、HP 上では割愛いたします

### 2学期にむけて

7月17日、音楽集会有り、「大地讃頌」の練習をしました。最初に教室でパート練習をおこない、その後に体育館に移動して全校で合わせました。教室でも体育館でも、3年生が後ろから声をだして、1、2年生を支えてくれます。

2学期に行われる墨坂祭がたいへん楽しみです。保護者の皆様も、ぜひ墨坂祭に足をお運びください。



#### ○夏休み中における緊急時の連絡先について

- ・ 週休日、祝祭日、学校閉庁日 以外 について

日直の職員が出勤しています。8:15～16:45 にお電話（245-0564）をお願いします。

- ・ 時間外、週休日、祝祭日、学校閉庁日（8/10～8/16）について

本校は、留守番電話対応となっていますので、市役所にご連絡ください。

学校閉庁期間中の平日（8/12～8/16）は須坂市教育委員会学校教育課（248-9010）へご連絡ください。

- ・ それ以外は、市役所代表（245-1400）にご連絡ください。
- ・ 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症のために、8月21日（水）が出席停止となる  
ことが確定した場合は、8月20日（火）午前中に墨坂中学校（245-0564）ご連絡ください。